

発行・骨髓バンクを支援するいばらきの会 事務局 〒311-1415 茨城県鹿島郡旭村造谷 605 くるみ屋内
TEL:090 - 8306 - 7111/FAX:0291 - 37 - 1425/E-mail:yamazaki@kurumiya.com
ホームページ : <http://www.marrow.or.jp/ibaraki/>

日本骨髓バンク骨髓提供希望者(ドナー)登録者数 131,375人 県内 1,911人
骨髓移植希望者(患者数)1,780人 県内 36人
バンクを通じての移植例数:2,891例 県内 45例 採取数 42例
県内の非血縁者間骨髓移植・採取件数の病院別一覧
県立こども病院 移植件数 41例 採取件数 32例
筑波大学附属病院 移植件数 4例 採取件数 10例

(2000年9月末現在)

「日立ふくしボランティアまつりに参加」

8月26日、日立ふくしボランティアまつりにおいて、新規に購入した大会専用テントの筆下ろしも兼ねてPRコーナーを設けました。当会のネームがバッチリ入ったピカピカのテントの中では、千葉の会と合同でペンシルバルーンコーナーのみを設けて募金活動を行ないました。天気に恵まれすぎて、炎天下の中、皆さんご苦労様でした。参加者は千葉の会の梅田さんと山本さん、当会は牛島・中津川・佐藤・佐々木・小室・瀧・山崎の7名でした。梅田さん山本さんには遠い所ありがとうございました。おかげでペンシルバルーンは盛況でしたね!?その気になるチャリティー募金額は13,334円でした。以上の模様はいばらきの会HPの「今年の活動実績及び活動予定」内のふくしボランティアまつりのページにアップしておきましたのでご覧ください。(牛島英二)



日立市よかっぺ祭りでの献血登録会

去る9月9日(土)日立市のよかっぺ祭り会場において、献血同時のキャンペーン登録が行なわれました。当日の朝は今にも雨が降りそうな天気で、開催が一時心配されましたが、午前中には何とか持ちなおし、無事終了することが出来ました。この日はキャパシティ40名のところ前日までの予約者3名でしたが、受付16名、最終的には13名の方に登録頂きました(うち3名は年齢オーバーで登録できず)。キャンペーン登録開催を告知する、街頭でのチラシ配布、前日の読売新聞記事の効果も手伝い、当日の飛び込み登録がほとんどでした。なお、献血の方は170名余です。最後になりましたが、ライオンズクラブの方々にもチラシ配布などをお手伝い頂き、有難うございました。(中津川智彦)

取手市制施行三十周年表彰

10月1日、取手市役所において「いばらきの会取手支部」は、社会福祉の増進に貢献されたとして、市制施行30周年にあたり表彰されました。同じく貫井支部長 同市議会議員 も表彰されました。これまでのご努力の賜物として、心よりお祝い申し上げます。(山崎揚久)

県民まつりキャンペーン登録開催! 献血並行型って何?

9月に実施した日立よかっぺまつりでの県内初の献血並行型キャンペーン登録に引き続き、第2回目を県民まつり会場内で実施することになりました。献血並行型とは、献血バスが配車される献血会場で同時に骨髓バンクのドナー登録も実施するものです。これまでは沖縄など一部の地域で限定的に実施されていましたが、今年7月に日赤本社から通達が出されて全国的に解禁となり、今後の拡大が期待されています。この方式では 問診・採血を献血と同時にこなすことから医師・看護婦を別に手配せずに済むこと ドナー登録者側から見れば検査用採血が献血と同時に1回で済むこと 献血会場は人出の多い場所に設定されるため一般市民へのアピールが容易であること ボランティア精神旺盛な献血者に登録してもらえる可能性が高いこと、など多くのメリットがあります。9月のよかっぺまつりでは登録した13名の内、事前予約者はわずか2名に対して当日受付は11名にのぼっています。いばらきの会では今後もこの方式によるキャンペーン登録を県内各所で開催していきたいと考えています。幸いにも県業務課や血液センターの対応は極めて好意的であり、本方式の定着のカギを握るのは企画準備を担当する当会です。活動の継続は大変ですが、努力した成果が直接にドナー登録者増という数字で現れるため、誠にやりがいのある活動といえます。患者さんを救うための第一歩となるドナー登録会で、登録に来た方が熱心にビデオを見る姿を見ればきっと感動しますよ!

さあ皆さんも一緒に活動しましょう。県民まつりでの活動内容は以下の通りです。前日はくるみ屋さんに宿泊して臨時定例会も開催します。ぜひぜひご参加ください。参加される方は事務局長までご連絡下さい。(詳細は同封のチラシをご覧ください)

10月28日(土)集合:9時 JR水戸駅南口(直接会場でもOKです)

チラシ配布:10時~16時 配布物:チラシ+県パンフ+キティティッシュ

臨時定例会:18時 くるみ屋(泊)無料

10月29日(日)集合:9時(会場) 献血&キャンペーン登録:10時~15時

役割:案内・誘導、チラシ配布・呼び込み

だれでもよかっぺ・いばらきツアーのご案内

ふくたまとちばらきの会・関東地区セミナー番外編として「だれでもよかっぺ・いばらきツアー」を開催する事になりました。関東近辺の骨髄バンクボランティアが集まり、観光&親睦中心の「骨髄バンクを考えない」イベント内容としました。(ちょっとは考えるかな?)一日目は茨城の代表的名所で日本三名瀑の一つ「袋田の滝」、二日目は笠間稲荷神社を観光します。宿泊は当会事務局・山崎の「くるみ屋」です。おいしい料理とお酒、ボランティア仲間との楽しいおしゃべりで今年の疲れを吹き飛ばしましょう!

日程:平成12年12月2日(土)・3日(日) 会費:概略12,000円(宿泊・交通費込み、当日精算)

但し、集合場所までの往復交通費は各自負担 参加対象:関東地区を主対象。

募集人員:先着 40名(定員になり次第締切) 交通手段:中型観光バス

スケジュール

12月2日(土) 10時:集合(JR日立駅中央出口) 11:30 袋田の滝、昼食 16:30:くるみ屋着

17時:ペンシルパルーン講習会 18時:夕食・懇親会

12月3日(日) 9時:くるみ屋発 11時:笠間着、昼食・観光 14時:JR水戸駅着・解散

参加申込み:事務局長:山崎まで tel090-8306-7111 fax:0291-37-1425 e-mail:yamazai@kurumiya.com

参加される方へお願い:ピンゴ大会の景品5000円/品程度を各自ご持参下さい。また、各地の銘酒持込み大歓迎!

<宿泊先>「旅館 くるみ屋」〒311-1415 茨城県鹿島郡旭村造谷 605 tel:0291-37-0555 ホームページ <http://kurumiya.com>

骨髄バンク MONTHLY REPORT 10月号

発行:(財)骨髄移植推進財団事務局 2000年10月17日

1. 骨髄採取後に「大量内出血による後腹膜血腫形成」という健康被害が発生

9月下旬、琉球大学での骨髄採取終了後、ドナーが下腹部痛を訴えられたため検査したところ、1500cc程度と推定される大量内出血による後腹膜血腫があることが判明しました。こうした事例は、これまで日本の骨髄バンクでは一度も発生していません。海外ではIBMTR(国際骨髄移植登録機構)で、1980年~89年の8300例の移植のうちで1例報告があるだけです。現在、原因を究明中ですが、骨髄採取する際に血管を傷つけた可能性も否定できません。幸いなことにドナーの方は順調に回復されて、間もなく退院し社会復帰される予定です。財団ではこの事態を重視し、原因が明らかになり対策が講じられるまで、当該施設での骨髄採取の停止を通知しました。また善意から提供されているドナーの方々の安全を確保するために、全国116の採取認定施設に対し、「骨髄穿刺の部位と深さに十分注意するよう」緊急安全情報を出しました。今後も、ドナーにおきた健康被害情報については、早期の情報開示に努めてまいります。今回の事例発生で、ドナー登録者の方々とご家族、さらには一般の方々に不安を与えたことを重大に認識し、今後、原因究明と再発防止策の徹底のため全力を挙げることで、社会からの信頼回復になるものと思っております。

2. 緊急コーディネートが成果を発揮。開始から約3カ月以内で移植が完了

9月7日に記者発表いたしました、「ドナーの貧血の見逃しにより、前処置開始後に移植が中止となった患者さん」については、緊急コーディネートにより、今月、骨髄移植が無事終了しました。中止の後、他ドナーとのコーディネート再開から3カ月以内で完了することができました。

3. 移植3000例突破全国キャンペーンを実施します

日頃の皆さまのご支援のお陰をもちまして、財団設立より9年を目前に控える11月中旬頃、移植累計が3000例に達する見込みとなりました。善意のドナーの皆さまからの「命の贈りもの」移植3000例達成を記念して、財団では、この事業に関わられたすべての皆さまの声を公募することになりました。別紙ご参照の上、ふるってご応募をお願いします。

また、当財団普及広報委員会では、「3000例突破記念、全国一斉街頭啓発キャンペーン」を、12月3日(日)に行うことにしました。毎年12月は、骨髄バンク推進月間にあたります。全国一斉に街頭キャンペーンを行うことで、低迷傾向にあるドナー登録者の拡大への大きな契機になることが期待されます。さらに、各都道府県あてに、庁舎でのキャンペーン登録会の開催要請等をする予定です。今後、各地の支援団体の皆さまにもご協力要請をいたしますので、何卒、ご協力を賜りますようお願いいたします。

日本骨髄バンクの年次大会である「骨髄バンク推進全国大会」が、12月9日(土)午後6時より国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)で開かれます。翌10日には京都府立総合社会福祉会館(ハートピア京都)で医療講演会・患者相談会も予定しています。詳細は追ってご連絡いたしますが、多くの皆さまのご参加・ご協力をお願いいたします。

4. 「患者さんと主治医のためのパンフレット」を発行

当財団医療委員会の編集による「患者さんと主治医のためのパンフレット」が完成しました。白血病などの難治性血液疾患と診断され、骨髄移植・造血幹細胞移植を必要とされる患者さんのために、病気と治療法に関する最近の動向をわかりやすく解説したパンフレットです。患者さんが主治医の先生と一緒に読みいただき、ご自身に最もふさわしい治療法を選択していただきたいと願って発行されました。患者さんが本当に知りたいことをできるだけ事実に基づきわかりやすく解説し、データも最新のものを紹介しています。今後も随時改訂の予定です。お申込みは当財団ファックス 03-3355-5090 に住所、氏名、電話番号、部数、関係者区分(患者、患者家族、医療関係、支援団体、バンクサポーター、その他)を明記のうえお申込み下さい。フリーダイヤル0120-377-465でも受け付けます。

5. チャンスの巻末申込用紙欄は、廃止されました

前号でお知らせしたとおり、10月16日より、ドナー登録のしおり「チャンス」巻末の申込用紙は廃止することになりました。新規印刷分より、関係ページを一部改訂のうえ、登録希望用紙を削除いたしました。現在流通している「チャンス」についても、引き続き活用していただけますので、よろしく願いいたします。

6. 全米骨髄バンク(NMDP)年次大会報告

9月22日から24日まで、全米骨髄バンク(NMDP)年次大会が、ミネソタ州ミネアポリスで開かれ、財団からは岡本国際委員長、埴岡事務局長、業務部・富田、小山、募金部・小林が参加しました。岡本国際委員長はInternational Challenges in Transplantationのテーマで大会発表を行い、日本の移植成績の良さと効率の高さが注目されました。ポスター展(テーマ掲示発表)にはMore Chances for Patients(3 Years Strategy)のタイトルで参加し、コーディネート迅速化プランなどが関心をよびました。年次大会では、危機管理や緊急対応が重要なテーマになっていました。なかでもフランスのポスター展の、開始から48時間で移植したという緊急コーディネートは、驚嘆すべき内容で、世界のバンクに大きな問いかけをするものでした。他にもSOP(標準

手順書) フィルタープロジェクト(フィルター紙による採血法) P B S C T (同種末梢血幹細胞移植) ドナー安全、対面などについての討論がなされ、これらは日本の骨髄バンクの今後の発展と充実のために大いに参考となるものでした。

7. 東京都「骨髄バンク担当者実務研修会」が開催されました

10月13日、東京都立駒込病院大会議室で東京23区の保健所職員を対象にした骨髄バンク担当者実務研修会が開かれ、約30人が参加されました。骨髄移植と骨髄バンクについて理解を深め、今年度から厚生省通知により23特別区でも実施が可能になった「普及啓発活動と骨髄ドナー登録受付事業」に役立てていただくことが趣旨。同病院内科部長の坂巻壽医師による「骨髄移植の実際」の講演をはじめ、財団と日赤の担当者からそれぞれの役割に関する説明、保健所での実務についての具体的説明があり、患者さんとドナーの方の体験を伺う時間も設けられるなど充実した内容となりました。

皆さんの声を大募集します

1991年12月の当財団設立以来、満9年を迎えようとしています。9月末現在、ドナー登録者は約13万人を超え、11月中旬にはバンクでの移植件数も3000例に達する見込みです。3000例の移植 いったいどのくらいの方が関わり、さまざまな思いがそこにあったことでしょうか。ドナーになってくださった3000人の方々、移植を受けた患者さん、それぞれのご家族、友人、知人の方々。病院の医師、看護婦さんはじめ関係者、コーディネーター、各地の支援団体のみならず、関係機関の方々、財団関係者。そして闘病のかいなく亡くなられた患者さんのことも忘れることはできません。私たちに皆さまの声を寄せて下さい。手紙、手記、写真、ビデオ、録音テープ、詩歌などジャンルは問いません。バンクニュース、全国大会、3000例記念イベント、骨髄バンク推進月間、10周年記念イベントなどで紹介していきたいと思えます。

<例> 患者さんから・国体に出た・ハーフマラソン完走・エアロビで汗かいています・子供ができた・あのときの大事な手紙
・いま再び書く2通目の手紙

<例> ドナーから・患者さんに送った手紙・コーディネーターにありがとう・採取医師の先生にボランティア活動で遭遇
・ドナーになってその後の自分がかわった・ボランティアに参加。仲間といえるのが楽しい

内容：ジャンルは問いません。どしどしご応募ください。

掲載および採用させていただくものを選択させていただきます。紙面やスペースの関係上、すべてを採用できませんことを、あらかじめご了承ください。返却ご希望のものには、その旨明記してください。ただし、お預かりする期間が長くなることをご了承のうえ、ご応募ください。作品の保管、取り扱いには十分注意いたしますが、コピーができないもの、形見など大切なものご応募はご遠慮ください。手記など書下ろししていただくものについては1200字程度でお願いします。

締切：第1次締切 2000年10月31日 日本骨髄バンクニュース、全国大会のために

第2次締切 2000年11月30日 3000例記念イベント、全国大会のために

なお、来年には10周年記念のため、同様の募集を大規模に行うことを考えています。

応募方法：原則として郵送でお願いします。160-0022 東京都新宿区新宿2-13-12 新宿ISビル8階

財団法人骨髄移植推進財団 広報渉外部 この件に関する問合せ先 電話 03-3355-5041 FAX 03-3355-5090 山崎、小林、川原

【事務局から御協力をお願い】

各皆様方のお住まいになっている各市町村や企業などでのイベントがありましたらお知らせください。骨髄バンクのPRに役立てたいと考えております。ご協力お願い致します。

会費納入とご寄付をありがとうございました。(2000年7月16日～10月18日現在 順不同敬称は略させていただきます。)

寄付 佐藤禮輝1,000円・佐々木潤一郎8,000円・大屋隆子3,000円・吉田茂則1,000円・塚越恵子8,000円
佐藤朗5,000円・立原三郎14,000円・松園茂樹20,000円

会費 佐藤禮輝・鈴木秀文・佐々木潤一郎・大屋隆子・塚越恵子・立原三郎

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年2,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

<新年度年会費納入のお願い>

皆様からの会費は、大切な運動資金です。有効に活用致します。

また善意のご寄付もよろしくお願い申し上げます。

年会費 一口 2,000円 何口でも

骨髄バンクのボランティアを応援してください。

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。

活動資金は善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。

ご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義

00110-3-127575

加入者名義

骨髄バンクを支援するいばらきの会